
第5回 昭島市総合基本計画審議会 第1部会

議事要旨

[日時] 平成22年6月17日(木) 19:00~20:30

[場所] 昭島市役所 3階 庁議室

[出席者]

1 委員

松本芳之会長、小川仁副会長、井ヶ田博委員、大田眞也委員、小野正敏委員、國井俊彦委員、
小林和子委員、中村圭子委員、福崎誠委員
(欠席者) 平石正美委員

2 事務局

日下企画部長、佐藤総合基本計画担当主幹、柳主査

3 コンサルタント会社

田中

[日程]

1 基本計画素案

第3章 未来を育む あきしま (教育・文化・スポーツの充実) について

(1) 学校教育の充実

幼児教育

学校教育

(2) 青少年の育成

青少年の健全育成

2 その他

[配布資料]

・第3章 未来を育む あきしま (教育・文化・スポーツの充実)

・用語解説 (第3章)

[議事要旨]

議事録の確認

事前に送付した議事録について、各委員の了承を得た。

1 基本計画素案

【説明】

事務局より、資料に基づき「第3章 未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツ）」の説明が行われた。

【質疑応答・意見】

(1) 学校教育の充実

(幼児教育のニーズについて)

就学前に入園している児童の割合が90.6%とあるが(P4 政策指標)、残りの約10%は今後向上していく余地があるのか。【中村委員】

幼児教育に対するニーズは高く、学校側としてもこれらの施設での教育を小学校へ繋げていく考えを持っている。また、幼保の一元化という考え方も国から示されている。認定保育園等、新たな施設も増えてきているので、就学前に入園する児童は今後増加していくのではないかと考えている。なお、家庭で保育を行う保護者や幼児に対しては、児童センター等を活用し、サポートして行きたい。【事務局】

(特別支援教育について)

特別支援教育について、学校教育よりももっと早い段階で一人ひとりのニーズに応じた支援に対応していくというのが現代の流れであり、それが幼児教育にも関わると思うがいかがか。【松本部長】

ご指摘の点については、主管課と調整し幼児教育の項目に付け加えていきたい。なお、現状においても保育園等で一定の枠を設け対応している。【事務局】

(在宅児童について)

「保育園や幼稚園に通園していない幼児に対しては」(P3 地域教育の向上 A交流の場の確保)とあるが、現在そのような幼児はどのくらいいるのか、またそれらの幼児は特別支援の関係で通園していないのか。【小林委員】

3歳から5歳までの幼児数が2,850人、その中の9割が通園しており、残りの約280人が在宅と考えられる。障害のある児童については、障害児の施設に通ったり、幼稚園や保育園等に通っている方がいると思うが、実態については把握できていない。【事務局】

入園時期の関係から、3歳児よりも5歳児の方が在園の割合が多いのではないか。【松本部長】

(託児所について)

託児所というのは、幼稚園及び保育園とはまた別の施設なのか。【福崎委員】

託児所は民間の施設であり、昭島市で託児所に通っている人は0人であった。【事務局】

(待機児童について)

他の都市では待機児童の問題への関心が高いが、昭島市においてはどうか。【福崎委員】
この章では、こういった幼児教育を進めていくかの記載を中心としたい。なお、待機児童に関しては第2章で記載している。【事務局】

(児童センターについて)

「児童センターの活用」(P3 地域教育の向上 A交流の場の確保)について、児童センターは現在1か所しかないと思うが、同じ機能の施設を造っていくのか。【小野委員】
市内に4館を整備する考えが市の計画としてはある。ただ、今後10年間でそれが実現していくかどうかは、非常に厳しい状況にあり、今ある1館から施策を展開していく考えで、現状では、新たな施設の書き込みはできなかった。【事務局】

(小中の連携にあたって)

「小中学校での学習の連続性を踏まえ、教育課程における小中連携を推進」(P6 学校教育の充実 A確かな学力の定着)とあるが、学習面だけではなく生活面等も重要であるので、「教育課程」ではなく「教育活動」とするべきである。【井ヶ田委員】
ご指摘を踏まえ、修正を検討したい。【事務局】

(安全対策について)

「万一の事態に備えた防災・防犯訓練の実施などに努め、校内における児童・生徒の安全対策を徹底します。」(P9 教育環境整備 E安全対策の充実)とあるが、安全対策とは何か。不審者対策を盛り込んで欲しい。【井ヶ田委員】
防災に重きを置いた内容となっている。不審者対策についての記載も調整していきたい。【事務局】

「安全対策の充実」(P9 基本施策 教育環境の整備)について、特に危険を予知する能力を育むという項目を入れた方がいいのではないか。【小林委員】
それをここに書き込むべきことなのか、またどう書き込むのが良いのかも含め調整したい。【事務局】

(教職員について)

休み時間に教師に何か相談したくても、なかなか時間の余裕やチャンスがない。今の教員数で足りているかをチェックする機能や教育ボランティアの存在が必要。また食育について、お弁当の日は果たして意味を持つのか。食育プランナーやコーディネーターを通して食育を推進するという選択肢もある。【中村委員】

教員と児童及び生徒との現状は、教育委員会で認識している。しかし教員を増やすには非常に厳しい状況にあり、教員ボランティアや地域全体で教員を支えていくような考え方を進めていかなければならない。一方、ボランティアのデータベース化も始めている。学校のICT化による教員の負担軽減等も推進していくので、今後総合的に施策を進めていきたい。食育について、お弁当の日を設けてみたが、今はまだ試行錯誤している段階である。こういった形で食育をサポートしていくのか、食育プランナーや農業従事者等の活用なども検討しながら1歩1歩進めていきた

い。【事務局】

教員の適正人数は法律で決まっているので、教員を増やすことは難しい。【松本部長】
昔に比べ、子ども達とたくさん触れ合う教員がなかなかいない。子ども達の健全育成に繋がる活動を、教員を含めた様々な人々で協力して取り組むことも1つの方法である。【事務局】
教員が忙し過ぎる。また団塊の世代の退職によって、若い初任者の教員が多い。忙しいながらも何とか熱心に取り組もうとしている教員を、地域や家庭が協力してサポートしていかなければならない。【小林委員】

(食農教育について)

「食農教育として位置づけ、その充実に努めます」(P7 基本施策 C 健やかな体の育成)と記載があるが、漁業も農業と同様に考えるべきである。【福崎委員】
食農教育には漁業も含まれている。ただ昭島市の地域性で漁業を直に体験できる機会が少ない現状がある。【事務局】

(キャリア教育について)

「キャリア教育の推進」(P10 基本施策C)とあるが、今まで行っていなかったのか。【福崎委員】
会社訪問や仕事体験による職業の紹介や講義等を通じて、これまでもキャリア教育の推進を図ってきた。特に青少年期からの自立というのは重要なポイントとなっている。この点も踏まえて子ども達のより良い自立をサポートしていく。【事務局】
早い段階でキャリア教育を進めていこうとのことで、以前からやっていたが近年、ニートやフリーターの問題により、特に強調するようになった。【松本部長】
実際に工場へ行って仕事を体験したり話を聞いたりすることを早い段階で体験させ、自立した子ども達を育てるという考えの下、各学校がカリキュラムに取り入れている。【事務局】

(記載範囲について)

まずは総合基本計画に何をどう書くべきなのか考えなければならない。【國井委員】
基本構想及び基本計画にどこまでどう書き込むのかは非常に難しいところであるが、柱となる部分はしっかりと記載しなければならない。【事務局】

(交流教育について)

「問題行動を起こす児童・生徒に対しては、しっかりとした指導を実施します」(P7 B豊かな心の醸成 4つ目の)について、指導の仕方はそれぞれの学校によって大分異なるため、「それぞれの学校の状況に応じた～」という付け加えが必要。スクールカウンセラーにも2種類のカウンセラーがいるため、「適材適所で～」と付け加えると良い。また特別支援教育について、昭島市では交流教育がほとんどないのではないかと。交流教育を通じて他の子ども達の理解を深めることも必要であり、そういった記載が必要である。【松本部長】
交流教育については現実的に難しい現状があるが、ご指摘の点について調整したい。【事務局】
交流教育は可能な範囲で実施しているが、今後更に進めることが重要である。【小林委員】

(学校ボランティアについて)

学校支援のボランティアの方はどのくらいいるのか。【福崎委員】

それぞれの場面に応じたボランティアの方々がかなりの数いるが、今手元に資料がないため分かりかねる。【事務局】

学校支援のボランティアの数を増やせば、教員の負担が軽減されるという考えなのか。【福崎委員】

教員が児童と触れ合える時間を出来る限り増やすため、教員の仕事を全体で担っていくという意識を持つ等、どういった形でサポートできるのかを考えながら今後充実させていきたい。【事務局】

休み時間にボランティアの方が入ることもあるのか。【福崎委員】

登下校時に自治体の職員が挨拶や防犯等の活動をしているが、休み時間にはなかなか難しい。【日下部長】

休み時間に図書ボランティアの方が入る学校もある。実際に私の学校では図書ボランティアの方だけで25名いる。【井ヶ田委員】

(2) 青少年の育成

(補導数について)

人口1,000人あたりの地域別補導数に最も驚いた。昭島市の順位は何番目になるのか。【福崎委員】

上位から高尾、東大和、小平、そして4番目に昭島となる。【事務局】

昭島市は一市一署で警察の守備範囲が狭く、上位3市は広いがゆえの順位とも考えられる。【日下部長】

(不登校、倫理観、モラルについて)

これらの市では、元気であるのに学校へ行かない不登校者の比率が高いようであるが、補導数と関係があるのか。【松本部長】

不登校者の形態までは把握していないが、学校へ行くことにあまり意味を見出せない生徒がいるようである。【事務局】

問題行動のある子ども達も夢は持っている。時間は掛かるが、その子ども達に夢を実現する手法を学校や地域でも教えていく必要がある。【中村委員】

様々な理由が根底にあっての不登校であると思うが、最終的に行き着くところは両親なので、家庭からの視点も必要ではないかと考えている。【國井委員】

一度昭島市の成人式を見たら分かるかと思うが、規範がまるでない。家庭教育だけでは間に合わない。【小野委員】

これが行政の限界であり、これ以上は明記できないというのが現状ではないか。【福崎委員】

きちんと生活していく力を身に付けさせるために幼児期から継続して対応していくことがポイントとなる。その書き込みについても検討したい。

今日の日本は、社会の基礎となる部分がどうも失われている。教育が最も大事であるが、その教育の根本は家庭である。家庭、地域、学校が連携を取りながら進めていかなければ、この問題は解決できない。最近町田市において、学校の窓ガラスがたくさん割られた事件があったが、そ

の原因には親からの誘因があったとのことである。この例1つをとってみても、家庭教育がいかに重要か分かる。【事務局】

次回は、7月8日（木）開催予定。